

広尾町議会 常任委員会行政視察レポート用紙

議員名 前崎 茂

1. 今回の視察調査での重点項目は何でしたか。また、その理由は。

今回の行政視察の主目的は①沿岸漁業の低迷期に於けるトラウトサーモン養殖事業の取り組みについて
②人口減少による購買力低下での空き店舗活用について
の2点についてです。（せんなん市、八雲市、吉列市）も視察をした。

2. 実際に視察してみての感想は。

①の養殖事業の取り組みについてはせんなん市、八雲市は5、6年前から取り組んでいる。！事業規模では八雲市が水産事業から海水面養殖事業で一貫して取り組みが加えて現行の8万尾から令和10年度までに50万尾に増やすこととすることで今後の動向に注視したい。

②の空き店舗活用については、民泊（吉列市おらがくし）が実施しており、今後の事業展開の推進^{ついで}に情報収集したい。

※裏面に続く

3. 今回の視察調査結果を、今後の議員活動にどのように活かしますか。

4. その他(自由記載)

※提出いただいた内容は必要に応じて要約等を行い、議会広報で町民にお知らせすることとしていますので、ご了承ください。

広 尾 町 議 会

広尾町議会 常任委員会行政視察レポート用紙

議員名

萬巻山ちす子

1. 今回の視察調査での重点項目は何でしたか。また、その理由は。

広尾町は赤潮の影響、海水温の上昇から不漁が続く中、えぞばい
つぷ、ウニなどの養殖がおこなわれているが、先行き不安でもあ
る。道内各地で、ドラウトサーモン（ニジマス）の海面養殖試験が
盛んに行われていることから、少しでも早く将来的に希望が持てる
きっかけをと行政視察に至った。

2. 実際に視察してみての感想は。

日本各地で100か所を超えるご当地サーモンが誕生（ブランド
化）しており、サーモンの戦国時代と言われている。今後、民間企
業の進出も含めて、管内漁協の一丸となること、業種の変更などと
いった考えがあった。

淡水から発眼卵が1年後には600～700gの幼魚になり海面
養殖に、半年間で成魚3kgとなるにはびっくりしました。わずか1
年半で食卓に上がるとは。

※裏面に続く

3. 今回の視察調査結果を、今後の議員活動にどのように活かしますか。

今後、地場産品の開発（地域資源掘り起こし等）は必要なこと
だと思いました。まだまだ広尾町には可能性があると思います。

4. その他(自由記載)

当別町の「まちづくり株式会社」の空き店舗の建物を生き返
らせることを目的とするアイデアを競うコンテストがおこな
われ、レジャー施設が少ないことから老弱男女が遊べる店を
提案した方が優勝した。空き店舗を利用したこのような施設
が広尾町にもあればと思いました。

いけす網から逃げたニジマスが外来種扱いになるため管理に
苦慮しているそうです。

※提出いただいた内容は必要に応じて要約等を行い、議会広報で町民に
お知らせすることとしていますので、ご了承ください。

提出締切： 1 1 月 1 5 日（金）

広尾町議会 産業常任委員会行政視察レポート

議員名 齋藤 弘樹

1. 今回の視察調査での重点項目は何でしたか。また、その理由は。

今回の視察調査は、サーモン増養殖事業の先進地であるせたな町および八雲町熊石の視察及び当別町での空き店舗の利活用に関する取り組みが重点項目でした。

サーモンは成長が早く、比較的育てやすいうえ市場での需要も高いため、養殖事業に適した魚種であるとされています。

また当別町の視察では、空き店舗の利活用と創業支援の具体的な方法を学び、広尾町でも同様の手法が活用できる可能性を見出すことが主な目的でした。

2. 実際に視察してみての感想は。

サーモンの増養殖に関する視察を通して、温暖化の影響で海水温が上昇し、養殖に適した地域が青森から函館周辺まで徐々に北上していると説明を受け、広尾町でのサーモン養殖事業も将来的に可能性があると感じました。

当別町では、空き店舗対策において行政・商工会・民間企業が連携し、ワークショップの開催やチャレンジショップ事業を通じて創業希望者を支援している実例を学び、この取り組みによって実際の創業に繋がる成功事例を確認することが出来ました。また、管理者側が積極的に物件の持ち主や大家に働きかけ主体的に情報を集める姿勢が、地域活性化に寄与していると感じました。

※裏面に続く

広 尾 町 議 会

提出締切： 1 1 月 1 5 日（金）

広尾町においても、官民一体で創業支援の体制を整えられるようにしたいと思いましたが。

3. 今回の視察調査結果を、今後の議員活動にどのように活かしますか。

今回の視察で得た知見をもとに、広尾町でのサーモン養殖事業の可能性を探り
また、当別町の空き店舗の利活用事例を参考に広尾町でも空き店舗の情報集約
を進め、創業希望者に対する支援体制を行えるよう、行政や商工会等と連携を
図りたいです。視察で学んだ先進事例をもとに、広尾町の発展に貢献するため
の施策を考え、活動に活かしていきたいと思えます。

広尾町議会 常任委員会行政視察レポート用紙

議員名

尾矢 利昭

1. 今回の視察調査での重点項目は何でしたか。また、その理由は。

今回の視察の重点項目は、

1 サーモン養殖の現状と課題、事業化の可能性（せたな町・八雲町）

2 商店街の空き店舗対策の先進的事業（当別町）

である。

理由として、本町の抱える課題として沿岸漁業の漁獲量減少、本通り商店街の空き店舗の利活用の課題の解決に向けた対策を探るためにせたな・八雲・当別町の先進的事例の視察し、参考にしながら今後の本町の課題解決に向けた取り組みへの研究するためである。

2. 実際に視察してみた感想は。

まず、どの町でも課題に対する危機感の高さと解決に向けた取り組みへの熱量に驚いた。

視察した3町と本町の抱える課題は類似しており、どの取り組みも本町に取り入れるべき点が多く、今後はさらに勉強・研究し、本町にあった方法を模索し実行するべきではと感じた。

本町の抱える課題に対し、行政・町民が同じ価値観を持ち危機意識を高め、今後更なる議論が必要であると考えます。

※ 裏面に続く

3. 今回の視察調査結果を、今後の議員活動にどのように活かしますか。

この度の視察を終えて、改めて本町の抱える課題の大きさを感じた。

視察した町では、危機意識が高く、数年前よりすでに事業を始めている。

入念に考えられた事業計画であっても、実際に新規事業が成功するか

否か、その結果は後になってわかるものであり、大事なものは議論をし

行動に移せるかどうかの決断力であると感じた。

視察した町でも新規事業をするにあたり、そのリスクを十分に理解した上

で、また新規事業を行わない時のリスクも同時に考え決断したと思うと

今後の自身の議員活動の中で、失敗を恐れず行動しようと強く感じた。

4. その他(自由記載)

当別町の空き店舗対策の視察に行く際、同町のスウェーデンヒルズ地区
を視察した。

同地区は風景がスウェーデンのストックホルム郊外に似ているとのことか

ら、元スウェーデン大使の都倉栄二氏がスウェーデンとの交流施設の

建設を提案し、それを受け民間企業が「スウェーデン村計画」を提示し、

当別町が誘致したのが始まりである。

平成29年時点での地区の人口が782人。

聞くとところによると、そのほとんどが移住者であるとの話を伺い、本町の

移住事業を考える上で、ヒントとなる事例だと感じた。

※提出いただいた内容は必要に応じて要約等を行い、議会広報で町民に
お知らせすることとしていますので、ご了承ください。

広尾町議会 常任委員会行政視察レポート用紙

議員名 大庭 克彦

行政視察場所：せたな町及び八雲町（トラウトサーモン海面増養殖事業）
：当別町（空き店舗対策）

1. 今回の視察調査の重点項目とその理由

今回の行政視察の目的と重点項目については、本町の沿岸漁業は主力のサケ・マスを始め、ししゃもなどの漁獲量が温暖化等による環境の変化により大幅に減少しており、今後も劇的な回復が見通せない状況にあることから、新たな漁業所得の確保対策として近年、各地で実施されている「トラウトサーモン」の海面増養殖で、道内における先進的な取り組みをおこなっている八雲町及びせたな町の「種苗生産」（八雲町）及び「海面増養殖事業」（両町）の取り組みを視察することとなった。

調査の重点事項は、「トラウトサーモン」の海面増養殖の実施状況及び産業化に向けての収支状況、採算性の検証、運営方法、今後の展開などとし、両町の担当職員等の話を伺い、実際に増養殖に使用されている漁港を視察した。

また、本町では人口減少や商店等経営者の高齢化・後継者不在により、中心部を始めとして営業を中止し「空き店舗」となっている商店などが数多くあり、これら「空き店舗」の再生・有効な利活用は本町の活性化に向けた大きな課題となっており、今回、「空き店舗」対策として画期的な取り組みを行っている当別町を視察することとなった。

調査の重点事項は、「空き店舗」の状況と店舗継承者の確保に向けた取り組み、継承後の利用状況などとし、まちづくりを考える有志により設立された「当別町まちづくり株式会社」の代表者及び当別町職員等関係者の話を伺い、利用されている「空き店舗」の状況を視察した。

2. 実際に視察してみての感想

【せたな町】

せたな町での令和3年から町が主体となった「トラウトサーモン」の海面養殖実証事業を行っており、飼料の給与方法など試行錯誤の結果、生産量及び販売額とも増加増加し一定の成果を得られたとのことであるが、事業収支については飼料や稚魚（種苗）の購入費の負担が大きく人件費等を除いて少額の黒字を計上した結果となり、人件費等も含めて事業所得を安定的に確保していくためには、更なる規模拡大に向けた投資が必要であり、継続した行政の支援も必要不可欠ではないかと感じた。

一方で町や地域の特産物として「ふるさと納税」の返戻品などに活用できる点や町民への還元などは有効な町おこし的手段であるとも感じた。

【八雲町】

八雲町では令和元年から道内では先進的に「トラウトサーモン」の種苗生産及び海面養殖実証事業を行っており、令和6年の生産量は44トンあまりと成果が現れており、養殖事業を運営する法人も設立され事業化に向けて着実に前進しており、他の養殖サーモンとの差別化を図るために町独自ブランドとして「二海サーモン」として各方面でPRするなど、将来に向けた可能性を感じた。また町としても継続して稚漁（種苗）生産に直接的にかかわり施設整備による規模拡大により生産量を増やし、道南地区に限らず各地への販売も視野に入れているとのことであり、「トラウトサーモン養殖」を検討する地域にとっても非常に朗報であると感じた反面、現在の販売価格を維持するためには、町の財政的負担も大きなものとなると思われ、ひとつの産業として安定的な所得を確保できる規模までの養殖事業の拡大と合わせて、今後の大きな課題であるとも感じた。

また、せたな町と同様に八雲町の特産物として「ふるさと納税」返戻品にも使用されており、納税額も着実に増えている状況を見ると同じ漁業を産業に持つ本町においても魚種は別にして、海面及び陸上養殖事業の可能性について具体的に検討することも必要ではないかと考えるところである。

【当別町】

当別町では、町内の「空き店舗対策」に取り組む有志で設立した「当別まちづくり株式会社」の取り組み内容について、代表者他の話を聞き、実際に町内の空き店舗の状況や活用されている店舗の状況を視察した。同社と町商工会が中心となって取り組んでいる「空き店舗探索ツアー」や空き店舗を活用した「チャレンジショップ」及び「ビジネスコンテスト」などの取り組みは非常に興味のあるもので、住民によるワークショップなどの開催と合わせて、「空き店舗対策」に向けた意識醸成に効果的な取り組みであると感じた。一方でまちづくり行政として当別町の関わり方が少ないように感じたので、同じ目的の下、町としても一体的、機動的に取り組みに参加及びかかる費用に対する支援など積極的に関わることによって、町民の「空き店舗対策」を始め、「まちづくり」に対する意識の高揚と成果に繋がるのではないかと感じた。

今回の行政視察を通じて、本町と同様の課題を抱える各町の事情や取り組みに至った経過などが非常によく理解でき、課題解決に向けては多少のリスクや不確定要素があったとしても何かの取り組みを始めなければ、本町の活性化に向けての前進はなく、一步を踏み出す先導役を行政及び議会が担っていくことが必要であると強く感じ、議員としての立場で本町の「まちづくり活動」に活かして行きたい。